

校長室より

「天空高き」



第115号



平成30年12月1日

姉妹校来校 ーポールケイン高校との短期交流会ー

飛行機が遅れて予定より1日遅れましたが、11月10日（土）～14日（水）、姉妹校であるカナダのポールケイン高校から、生徒8名、先生が2名、来校しました。今回で2回目の短期交流会でした。

皆さんは、主に授業で、机を並べて一緒に学ぶ機会が多かったと思います。本校の普段の学校生活の中に彼らが自然に溶け込んで、授業を受けていたことが、何よりもうれしく思いました。

彼らは日本の高校の授業の様子を直接体験でき、いろいろな場面で、カナダと日本の違いを感じたと思います。また、本校の生徒の家庭で共に夕食を取ったり、宮本・重岡先生宅でのホームステイを通して、日本の生活スタイル、食習慣や畳での生活、毎日風呂に入ることなど、彼らにとって驚くことがたくさんあったと思います。

異文化理解に必要なことや大切なことは、お互いの文化が違うことを踏まえて、その文化を認める事が第一歩です。皆さんも、彼らと一緒に授業を受けて彼らの見方、考え方や行動が全く異なる場面があったと思います。一方、国は違ってもこんなことは一緒だなあ、と感じたこともたくさんあったと思います。

グローバル化が進んでおり、皆さんはこれからますます、文化の異なる人達と生活を共にすることが多くなります。また、海外に行く機会も増えるでしょう。海外に出れば、気候、人びとの風貌、言葉、文化や風景も異なるため、日本との違いを強く意識することでしょう。

お互いに文化の違いを認め、互いに尊重し、相互に理解しようとする姿勢や態度が



何より大事です。来年の9月には、オーストラリアの姉妹校、サザンクロス校の生徒が来校します。折角の機会です。積極的にコミュニケーションを取って、いろいろな発見をしてください。

オーストラリアのトイレの標識から

福井県敦賀市の市立中学校に通う男子生徒が、吃音（きつおん）を理由にいじめを受けた、という報道がありました。

同じ一音を繰り返したり、言葉に詰まってしまうのが吃音で、問題を抱える人の多くは「うまく話せなかったらどうしよう」という予期不安を覚えたり、症状を隠そうとするあまり、コミュニケーションを避ける人もいます。

ところで、10月にオーストラリア修学旅行に行った時に、姉妹校のサザンクロス校があるタウンズビル市で、昼食をレストランで取りました。そこのトイレには、右のような3つの標識のあるトイレがありました。



上の2つの写真は、男性用と女性用のトイレですが、その下のは、All Gender Restroom、直訳すれば「すべての男女共用トイレ」です。LGBT（性的マイノリティであるレズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字を合わせたもの）の方に配慮したトイレです。私は残念ながら、まだ日本でこのような標識のあるトイレを見たことがありません。

すでにオーストラリアではLGBTに代表される性的マイノリティを理解し支援するという考え方が、定着していることが分かります。むしろ、日本が世界的に見て、性的マイノリティに対する配慮が著しく遅れている、と言った方が適切なのかもしれません。

11月には、中・高で、高杉敏子先生の人権講話を聞きました。私たちは一人ひとり、自分らしさが尊重され、自分らしく生きる権利があります。それは決して何人も侵すことはできませんし、侵すべきでもありません。

私たちが住んでいるこの地球上には70億人以上の人たちがいます。しかし、一人として顔や性格、そして見方や考え方が同じ人はいません。みんながみんな何もかも同じだったら、つまらないし楽しくもないでしょう。一人ひとりの顔や性格、見方や考え方が違うからこそ面白いのであって、そこから新しい発見や他人から学ぶことがたくさんあるのです。金子みすずの詩の中にもあります。「鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい」。その通りです。

「私が今、明るい目をもってこれなかったのは、前の世で悪いことをしてきたからなんだ。だから今、どんな苦しい勤めをしても、次の世には虫になってもいい。明るい目さえもらってこれればそれでいいから、そう思って勤め通してきた」

12月の月間目標

振り返る

平成30年度 チャレンジ目標

1. 先に元気なあいさつ
2. 5分前行動
3. 1%を誰かのために

2018を振り返る

2018年のカレンダーも最後のページになりました。「光陰矢の如し」時の経つのは早いものです。アドラー（心理学者）は人が成長できなくなるのは”限界があるから”ではなく”限界があると思ってしまうから”と説いています。

私たちは、今までに「負け・挫折・失敗」を何度も経験してきました。

あのとき負けたから、あのとき失敗したから、あのとき挫折したからと過去に縛られ、その中で知らず知らずのうちに自分の限界を決め、自ら壁をつくってしまいがちです。

私は人には死ぬまで無限の可能性があるといます。また、そう信じチャレンジし続け

ている人もたくさんいます。チャレンジと振り返りを通して、次への意欲を高めてください。

「ありがとう」の由来

ある機関の調べによると、「言われて嬉しい言葉は何ですか？」という問いに対し、回答は右の表のような結果になったそうです。

皆さんはどんな言葉でしたか？

私もやっぱり、「ありがとう」の言葉でした。

ところで、「ありがとう」という言葉は、いつ頃から使われるようになったか知っていますか？

室町時代頃からだそうです。

私たちは、感謝の気持ちを伝える言葉として「ありがとう」という言葉を使っていますが、漢字を使った「有難う」で表記すると、言葉の意味や役割がまったく異なるものになるそうです。

「有難う」と漢字で書くと、読んで字のごとく、「ある」ことが「むずかしい」…。つまり、「滅多にないこと」という意味になります。もともとこの言葉は、神や仏を褒めたたえ、賞賛する言葉として使われていたそうです。

神が手助けしてくれて、自分のために、何か便宜を計ってくれる…。それはまさに、「滅多にないこと」どころか、「あり得ないこと」もしくは「存在し得ないこと」です。そんなミラクルなことが起こったときに言う言葉こそ、本来の「ありがとう（有難う）」。

そう言って、神を賞賛したそうです。

ではこれがいつから「人」に対しても使われるようになったかということ、室町時代からだそうです。今では当たり前の人に対して使われる「ありがとう」も、室町時代までは、神のみに対して使われる言葉だったようです。

1位	ありがとう	57.2%
2位	おはよう・こんにちは	26.4%
3位	大好きだよ	13.9%
4位	お疲れさま	13.7%
5位	気が利くね	13.0%

災難は忘れる前にやって来る一周防大島から一

先月22日の貨物船の橋への衝突以降、周防大島では、送水管が破損した影響で、1ヶ月間以上経過した今でも、ほぼ全域にあたる9000世帯で断水が続いています。

現在島内で、14か所に臨時の給水所が設けられ、住民の方々が水を汲みに訪れています

「水を運んで帰り、大きい鍋に入れ、沸かして風呂に持っていく。すごく大変で、寒い」とか、「同じ水を2回使う。そしてまた洗濯機に移して」など、大変なご苦労をされています。



今、私たちの暮らしはさまざまな「インフラ」に支えられています。インフラとは、誰もが使えるカタチに整備された「供給」の体制です。水、電気、ガスなどのインフラが整備されているので、その恩恵を受けています。しかし、今回のような事故や自然災害に遭うと一瞬にして崩れ去ってしまう、脆弱（ぜいじゃく）な基盤であることを、再認識する必要があります。そして、特にもっとも脆弱なものが電気です。電気はガスや水道とは違い、蓄積しておくことが困難です。

今の日本は、豪雨や地震、台風などの自然災害が毎年襲ってきます。当たり前の生活ができなくなった時を想定して、常に準備しておくことしか、私たちにはできません。「備えあれば憂いなし」という諺がありますが、想定外なことも含めて、皆さんひとり一人が今の日本の現状をしっかりと受け止めてください。

24節気

大雪（たいせつ）：12月7日頃。

山岳だけでなく、平野にも降雪のある時節ということから大雪といわれたのでしょう。本格的に雪が降り始めるころです。

このころになると九州地方でも初氷が張り、全国的に冬一色になります。スキー場がオープンしたり、熊が冬眠に入るのもこの頃。鰯（ぶり）など冬の魚の漁も盛んになります。

冬至（とうじ）：12月22日頃

太陽が軌道上の最も南に来るときで、夏至と反対に、夜が最も長く、昼が短い日。夏至から徐々に日照時間が減っていき、南中の高さも1年で最も低くなることから、太陽の力が一番衰える日と考えられてきました。

冬至は「日短きこと至る（きわまる）」という意味。中国では、この日から新年の始まる日とされ先祖を祀る習俗がありました。

出典「日本の行事・暦」